

加子母(かしも)地域発信のものづくり

～山村発信の完結型林業の取り組み～

中島 創造

私の故郷である岐阜県中津川市加子母(かしも)は、岐阜県の東部、長野県との県界に位置し、人口約3,000人、森林面積が93.5%占める、林業・農業・畜産業を主産業としている山村です。中でも林業は古くから盛んで、地域世帯の8割が森林を所有しており、建築用材としても知られる東濃ひのきの産地です。



山に囲まれる加子母

また地域には神宮備林(木曾檜備林)と呼ばれる、樹齢400年生の木曾檜(きそひのき)の国有林があり、この森林からは伊勢神宮で20年に一度行われる、式年遷宮の御用材が伐り出され、この地域のシンボルになっています。

■完結型林業という取り組み

この地域では「完結型林業」という取り組みを行っています。これは地域の森林組合や産人が中心となって、植林・育林・伐採の素材生産から原木市場への出荷を行い、それを製材工場が買い付け、製材・乾燥をして木材製品にします。更に木材加工工場が木材製品に構造材や造作材の加工を行い建築用材まで仕上げています。そして工務店が住宅の設計・施工及びメンテナンスまでを一貫して加子母地域で行っています。

加子母及び周辺地域の山で育った素材を使い、地域の人が手をかけ製品として、それを都市部で家造りを通して住まい

手さん(エンドユーザー)にお届けする。林業・製材業・加工業・建築業がこの地域で完結する全国でも数少ない地域です。

細分化されて考えられる事が一般的なこれらの産業全てを、この地域の「林業」として捉え、地域が一丸となって全国各地のものづくりに励んでいます。私の携わる住宅の設計・施工を主とする住宅建築は、云わば完結型林業の終着駅となる部分です。

■木材も人も地域徹底主義

私の職場である(株)中島工務店は、関東(東京・埼玉)関西(神戸・大阪)中部(岐阜・名古屋)に支店があり、各地の拠点としてもものづくりに取り組んでいます。全てのベースとなっているのは加子母で、家造りで使用する土台・柱・梁桁などの構造材をはじめ、床・壁・天井などの板材や開口部の枠材などの造作材に至るまで周辺地域の木材を利用し、地域で加工しています。

家造りがはじまり建物の基礎が出来上がると、それらの材料が加子母から運ばれてくる訳ですが、木材と共に地域の木工も上京して建て方・造作と工事を行います。また左官・瓦・石など家造りに関する主要部門に関しても、地域の職人衆が上京しておこなっている事も特徴のひとつです。



その為、拠点となっている各支店の2階は宿泊施設になっており、建築期間中にはそこで衣食住を共にしながら都市部でのものづくりに取り組んでいます。

「地域の素材・地域の人」に徹底的にこだわる事で、ものづくりを通して地域の雇用が増え都市部に出ていた若者が故郷に帰り働けるようになりました。

また家造りを依頼して下さる住まい手さんの多くは、日本の山村地域の活性化に繋がっている事を誇りに想って下さっています。

■現地でもものづくりの背景に触れる

完結型林業で一番大切にしているのは、地域発信のものづくりの背景を知って貰う事です。その為に一年を通して様々なイベントを開催。毎年、沢山の方々が加子母においでになります。山に入り、観て触って匂って感じると共に、その地域に暮らす人に出会い、そこで地域の人達が何を食べどんな生活を営んでいるのかも知って貰います。

■水と緑の勉強会

家造り・山に興味のある方を対象に、都市部からお客様を加子母にお招きして、地域内で伐採・原木市場・製材・乾燥・加工・製品市場・建築現場と、木造建築の"川上から川下"を見学して頂き、木材がどのような過程を経て、家造りに活かされて行くかに触れます。



■木材検査

家造りが進行中の住まい手さんには「木材検査」と呼ばれるイベントがあります。これは製材・乾燥を終え、住宅の構造材・造作材として使用する材料を住まい手さん自身の目で観て検査して貰います。

住まい手さんが自分の家に使う材料を確認し、家造りの過程を知る事が住まい手さんにとって家づくりの物語となり、住宅完成後も自分の家に愛着を持ちながら、大切に住んで頂く事に繋がっています。

■ふるさとまつり

家造りを完成させて頂いた住まい手さんを初夏の加子母にお招きして、山村文化を満喫して頂く一泊二日のキャンプです。「都会の人々に第二のふるさとを」を合言葉に、住まい手さんの「お家のふるさと」への里帰り。加子母をより身近に感じて頂き、また遊びに来て頂きたいという想いを込めて毎年開催しています。



ふるさとまつりでは、住まい手さんが東濃ひのきの苗を植林。これは加子母周辺地域の山の木を使って頂いた感謝と共に、山の木を伐って使用することと同じように、新たに植樹し育てて行くことの必要性も体験して頂いています。

こららの取り組みを通して、家造りを終えてからも住まい手にさんとの交流は未永く続きます。

■かしも山歩(さんぽ)倶楽部

年に4回開催され、春の渓谷散策からはじまり、梅雨時期は木工教室、夏場には林道を歩き、秋の終わりは登山をしています。植物を愛でながら春から秋にかけ山を歩き、春は山菜の天ぷら、夏野菜のバーベキュー、肌寒くなる秋には芋煮で身体を暖める。四季を通じて加子母を楽しんで頂くと共に、

実際に山に入って歩く事を通して山を身近に感じて貰えるような取り組みです。

■加子母ツアー

林業・建築業に携わる実務者や学生の方々をはじめ、それ以外にも業種や分野を問わず、加子母に興味がある方々には、地域の取り組みを見学するツアーも随時行っています。これまで紹介してきたどのイベントでも、案内するお相手は違えど、地域での暮らしや食文化を体験し、田舎を満喫して貰う事は一緒です。



誰にでも同じおもてなしで地域のありのままを感じて頂く事を大切にしています。その結果、沢山の方が訪れ、沢山の加子母ファンが生まれました。その方たちが都市部に帰り、加子母を紹介して下さい、それが宣伝になっています。

■これまでとこれから

1980年代以前から始まった加子母地域発信の家造り。官民・業種・分野の垣根も飛び越え、地域が一丸となって、全国で家造りをはじめて40年近く経過しました。



地域発信のものづくり創始記

関東・関西・中部を飛び廻り家造りに励んでくれる職人衆をはじめ、完結型林業を縁の下で支える地域のメンバー。地域内外を問わず、沢山のの人に支えられて来た事で、今の私達

があります。またこれからもこの支えがあってこそ続けていくことが出来ると感じています。

これまで取り組んで来た経験値や、それらのノウハウを基に、ある程度のシステム化を行い、家造りから社寺仏閣に至るまで、全国各地で加子母地域発信のものづくりを行ってきました。私たちに「地域の宝」とは、その地域で生まれ育ち、そこで暮らす皆が、それぞれの立場で地域の為に取り組もうとする「故郷への想い」そのものだと感じています。

中島 創造 (なかじま そうぞう)

1980年岐阜県中津川市加子母(かしも)生まれ。(株)中島工務店 東京支店勤務。現場監督として木造建築に携わり、温暖環境に配慮した家造りに出会い、岐阜県立森林文化アカデミー 木造建築スタジオに入学。在学中は身の廻りや古民家の温度変化など、さまざまな実測を行う。2012年同校卒業後、現職。岐阜県加子母(かしも)地域発信の家づくりに携わりと共に同地域を巡るツアー等を通して、国内における森林の現状や地域木材について知って貰う活動も行う。



◇完結型林業の流れ
素材生産(森林)→製材→加工(構造・造作材)→建築